

過去の大規模地震と四国の状況

愛媛県技術士会
米虫 聡

古地震（参考資料）

- 大日本地震史料(国会図書館デジタルコレクション)
昭和16-18年出版：震災予防協会
- wikipedia(古地震・歴史地震・地震の年表(日本))
- 四国災害アーカイブス(一社四国クリエイト協会)
- 各市町村誌・伊予温故録(温泉伝記)など
- 愛媛県の地震記録（防災危機管理課）
- 地震調査研究推進本部(文部科学省)
- 松山地方気象台(気象庁)
- 過去から未来を考える古地震.net(一般：引用)

大日本地震史料 (国会図書館デジタルコレクション)

すべて

検索

詳細検索

インターネット公開

図書館送信資料

国立国会図書館内限定

大日本地震史料：増訂. 第1巻 自懿徳天皇御宇 至元祿7年

▼ 書誌情報

サムネイル一覧

先頭

前

次

最終

コマ番号 12 / 480

URL

印刷する

フルスクリーン(画面の拡大)



30%

概観図オン

表示領域設定

JPEG表示

書誌情報

詳細レコード表示にする

永続的識別子

info:ndljp/pid/1070653

タイトル

大日本地震史料：増訂. 第1巻 自懿徳天皇御宇 至元祿7年

著者

文部省震災予防評議会 編

出版者

震災予防協会

出版年月日

昭和16-18

請求記号

14.4-115イ

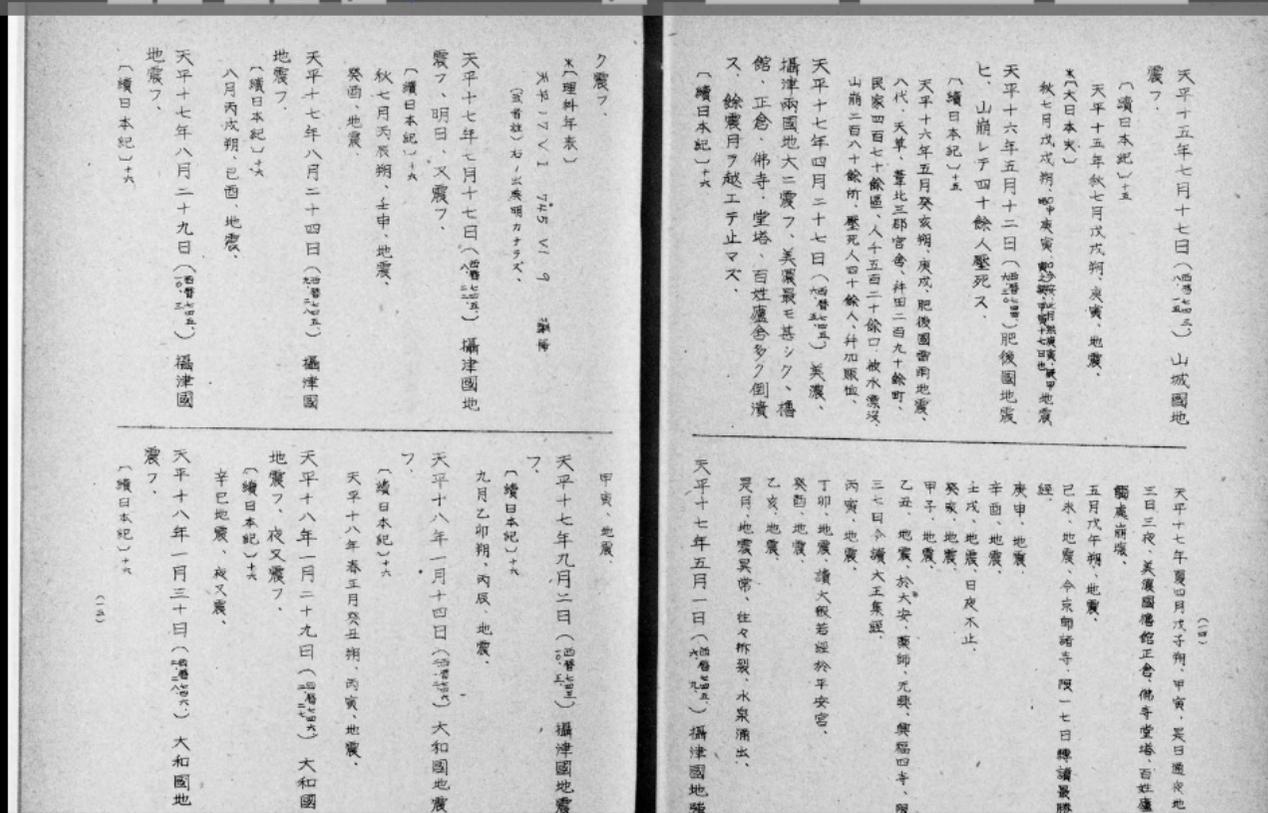
書誌ID(NDL-OPACへのリンク)

000000700866

公開範囲

インターネット公開(保護期間満了)

詳細レコード表示にする





四国災害 アーカイブス

shikoku disaster information archives

当サイトは過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理したものです。

■ 新着情報

- 2016.05.24 アーカイブスあらかるとVol.47をアップいたしました
- 2016.04.20 アーカイブスあらかるとVol.46をアップしました。
- 2016.04.12 掲載情報更新のご案内(情報追加)

[新着情報一覧]

■ ピックアップ アーカイブ

天保6年7月の風雨

天保6年（1835）7月8日、大風雨（大洲領）。 [続きを読む](#)

TAG 風水害 愛媛県大洲市

昭和21年の南海地震

昭和21年（1946）12月21日、潮岬の南南西沖数十kmの海底を震源とする南海道大地震が起こり、大津波を生じ、紀伊水道の両側沿岸並びに土佐湾の沿岸は大災害を被った。地震及び津波による死者は16県にわたり、倒壊家屋は22県にわたる広範囲に及ったことから、こ... [続きを読む](#)

TAG 地震・津波 香川県

寛政8年の洪水

寛政8年（1796）8月10日、11日、洪水、河岸大破す。（「伊予風水害小史（宇和島覚書）」による）／8月11日、風雨、水層28尺2寸。（「伊予風水害小史（大洲藩譜）」による）／8月11日、肱川で出水、大洲で水位28尺4寸。（「大洲警察署記録」による） [続きを読む](#)

TAG 風水害 愛媛県宇和島市

メールマガジンのお申込み

文字サイズ ▶ 小 中 大

検索

県名

愛媛県

市町村名

選択してください

災害種類

地震・津波

選択してください

地震・津波

土砂災害

洪水

風水害

高潮

雪害

火山災害

大規模な火災

その他

■ メニュー

- ▶ 四国災害アーカイブスについて
- ▶ 利用上の留意点
- ▶ 情報提供のお願い
- ▶ 検討委員会と運営機関について
- ▶ アーカイブスのパンフレット・活用の手引き

1-1 愛媛県の地震記録（西暦 605年～2011年）（防災危機管理課）

愛媛県の地震記録 (防災危機管理課)

年月日(和暦)	文献抄録	西暦	間隔
推古天皇 13年	(大日本地震史料、東宇和郡沿革史、道後温泉誌) 地大いに震ひ温泉(道後)陥没す。	605年	
推古天皇 36年	(伊予温古録、温泉伝記) 推古天皇 36年に大地震にて温泉塞り3年を経て舒明天皇 3年9月に再び出ず。	628年	23年
天武 12年 10月14日 (南海)	(大日本地震史料、日本書紀) 12年冬10月己卯朔、壬辰、速千人定大地震、举国男女叫唱不知東西、則山崩河湧、諸国郡官舎及百姓倉屋寺民及六畜多死傷之、時伊予温泉没而不下略)	684年 11月29日	56年

明応 3年 5月7日	(新居郡誌) 大地震ありて損害多し。	文禄 4年 7月	(伊予温古録、鶴岡八幡神社記録) 鶴岡八幡神社、周桑郡北条村字五反地に在り(中略) 文禄 4年 7月 震災のため社殿悉く陥没す。因て村人社地をとし、今の地へ再建せりと。(北条村は現在の東予市にある。)	1595年	9年		
明応 4年 8月15日	(新居郡誌) 大地震ありて被害多し。	慶長 1年 7月12日	(大日本地震史料) 豊後地大に震ひ、府内近傍は津波の襲う所となり、瓜生島の大部沈下して海水に被われ、死者 708 名を生ず。 (伊予温古録、薬師寺記録) 薬師寺、伊予郡保免村字寺ノ東に在り、旧と日照山山医王院長国寺と号す。行基の開基にて古寺なり(中略)慶長元年閏 7月大地震の時本堂二王門崩るる由いい伝う。(薬師寺は今の松山市余戸)	1596年 9月4日	1年		
明応 7年 6月11日	(新居郡誌) 大地震あり、地じり又は土地陥没の地大に陥没崩壊し面積四分の三を失ひ三好郡中庄村に避難移住せしものの子りと云う(黒島は今の新居浜市にある。)	天正 2年	(伊予温古録、橋新宮神社社記) 橋新宮神社新居郡洲之内村字矢倉の下にあり豊後地大に震ひ(中略)天正 2年 2月 5日 地震に付、城の石垣 20 間、塀 30 間余崩之由也(中略)20 日夜伊達遠江守在所予洲宇和島より飛脚到来して云、今月 5日、当所大地震、廻りの石垣 116 間、長屋塀 780 間破損仕る由注進あり。	1649年 3月17日	19年		
享祿 4年	(伊予温古録、温泉伝記) 享祿 4年大地震して悉く湯桁を埋せし(以下略) (伊予史年表(伊予金石文)) 10月河野通直道後温泉の浴槽を改造	天正 13年 11月	(新居郡誌) 11月大地震あり。	貞享 2年 12月4日	(大日本地震史料) 12月4日大地震道後湯没す。御城郭の内数ヶ所崩る。	1685年 12月29日	36年
天文 2年	(伊予温古録、橋新宮神社社記) 橋新宮神社新居郡洲之内村字矢倉の下にあり豊後地大に震ひ(中略)天正 2年 2月 5日 地震に付、城の石垣 20 間、塀 30 間余崩之由也(中略)20 日夜伊達遠江守在所予洲宇和島より飛脚到来して云、今月 5日、当所大地震、廻りの石垣 116 間、長屋塀 780 間破損仕る由注進あり。	文禄 4年 7月	(伊予温古録、鶴岡八幡神社記録) 鶴岡八幡神社、周桑郡北条村字五反地に在り(中略) 文禄 4年 7月 震災のため社殿悉く地へ再建せりと。(北条村は現在の東予市にある。)	貞享 2年 12月10日	(大日本地震史料) 安芸地大に震ひ家屋倒潰するもの多く、死者を生ず。1月4日備後も地震強く三原城の石垣所々孕出せり、長門及び伊予にも被害あり。 (伊予温古録、温泉伝記) 貞享 2年 12月 10日 地震に泥湯湧出後清湯となる。	1686年 1月4日	0年
天正 13年 11月	(新居郡誌) 11月大地震あり。	慶安 2年 2月5日	(大日本地震史料) 伊予、安芸両国地大に震ひ、宇和島、松山の二城石壁崩れ、広島にては、侍屋敷町家少しく潰れたり。 (寛明日記) 慶安 2年 2月 19日松平隠岐守在所予洲松山より飛脚到来して申云、今月 5日、当所大地震に付、城の石垣 20 間、塀 30 間余崩之由也(中略)20 日夜伊達遠江守在所予洲宇和島より飛脚到来して云、今月 5日、当所大地震、廻りの石垣 116 間、長屋塀 780 間破損仕る由注進あり。	慶長 9年 12月16日 (東南海)	(大日本地震史料) 東海、南海、西海の諸道地大に震いて溺死するもの夥し、房総半島は30		
文禄 4年 7月	(伊予温古録、鶴岡八幡神社記録) 鶴岡八幡神社、周桑郡北条村字五反地に在り(中略) 文禄 4年 7月 震災のため社殿悉く地へ再建せりと。(北条村は現在の東予市にある。)	慶長 1年 7月12日	(大日本地震史料) 豊後地大に震ひ、府内近傍は津波の襲う所となり、瓜生島の大部沈下して海水に被われ、死者 708 名を生ず (伊予温古録、薬師寺記録) 薬師寺、伊予郡保免村字寺ノ東に在り、旧と日照山山医王院長国寺と号す。行基の開基にて古寺なり(中略)慶長元年閏 7月大地震の時本堂二王門崩るる由いい伝う。(薬師寺は今の松山市余戸)	慶長 19年 10月25日	(伊予温古録、温泉伝記) 大地震にて山崩れて泉脈塞がる。 (松山叢談)		

地震の年表（日本） wikipediaより

安土桃山時代(1573年 - 1603年頃)

- 1585年7月31日(天正13年7月5日) 大阪・京都・伊勢で大震。
- 1586年1月18日(天正13年11月29日) **天正地震**(東海東山道地震、飛騨・美濃・近江地震) - **M 7.8~8.1**(それ以上の可能性あり、あるいはM 8クラスの地震が3つ以上同じ日に立て続けに発生した可能性あり)、死者多数。飛騨・越中などで山崩れ多発、白川郷で民家数百軒が埋まる。内ヶ島氏、帰雲城もろとも滅亡。余震が1年以上続く。三河湾と若狭湾という日本海・太平洋両岸での大津波記録が複数あり、複数の巨大地震の同日発生の可能性がある。少なくとも**養老断層**(愛知県)、**阿寺断層**(岐阜県)の2つの断層の活動(いずれもM 8クラスか)の可能性が高い。さらに若狭湾に津波をもたらした断層も活動したと考えられ、3つのセグメントでのM 8クラス地震が同日に少なくとも3つ以上発生した可能性が高い^[注 10]。
- 1590年3月21日(天正18年2月16日) 安房で地震 - 2mの隆起あり。潮が引いて3キロの干潟が形成された。
- 1596年・以下の3つは連動型地震の可能性がある。
 - 9月1日(文禄5年閏7月9日) **慶長伊予地震**(慶長伊予国地震) - M 7.0、寺社倒壊等。同年同月に発生した一連の内陸地震のさきがけとなる。四国を走る**中央構造線断層帯**での地震と考えられている。
 - 9月4日(文禄5年閏7月12日) **慶長豊後地震**(大分地震) - M 7.0~7.8、死者710人、地震によって**瓜生島**と**久光島**の2つの島が沈んだとされている。大分県を走る**別府・万年山断層帯**(べっぶ・はねやま だんそうたい)での**正断層型**地震と考えられている。
 - 9月5日(文禄5年閏7月13日) **慶長伏見地震**(慶長伏見大地震、文禄の大地震) - M 7¹/₂±¹/₄、京都や堺で**死者合計1,000人以上**。伏見城の**天守閣**や石垣が損壊、余震が翌年春まで続く。淡路島~神戸~大阪北を走る**六甲・淡路島断層帯**での地震と考えられている。

17世紀 [編集]

江戸時代(1603年頃 - 1868年頃)

- 17世紀前半・津波堆積物の分析から、この時期に**千島海溝南部**(十勝沖から根室沖まで)を震源とする**M 8.6**クラスの地震が発生したと推定されている。1611年または1635年説あり^[68]。
- 1605年2月3日(慶長9年12月16日) **慶長地震**(南海トラフ連動型地震説、東海はるか沖地震説、または房総沖と南海沖の二元地震説、伊豆・小笠原海溝地震説あり) - **M 7.9~8**、関東から九州までの太平洋岸に津波、紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。八丈島でも津波による死者数十人。**死者1万~2万人**と推定されるが、津波以外の被害はほとんどなかった。
- 1608年12月30日(慶長13年11月23日) 仙台で地震 - 津波で50人死亡^{[69][注 11]}。
- 1611年
 - 9月27日(慶長16年8月21日) **会津地震** - M 6.9、**死者3,700人**。
 - 12月2日(慶長16年10月28日) **慶長三陸地震** - **M 8.1 (Mw >8.5)**。十勝・根室沖のM 9クラスとする説がある。一方、東北地方太平洋側^[注 12]で繰り返し発生していると推定されるM 9クラスの地震の候補ともされる^{[43][注 13][70]}。伊達領で大津波による**死者約2,000~5,000人**。
- 1614年11月26日(慶長19年10月25日) **高田領大地震** - M 7.7。震源は直江津沖。震域は会津、伊豆、紀伊、山城、松山諸国まで及んだ。越後高田藩では地震と津波により死者多数とする記録もあるが疑わしい^[71]、京都で寺社・民家が多数壊れ^[注 14]死者も出たことから、震源が京都沖の局所的な地震とする見解もある^[72]。同日に、伊豆と小田原と広い範囲で有感。津波が発生し千葉県**銚子市**の**飯沼観音**の境内まで到達したとの記録がある^[注 15]。池上本門寺**五重塔**が傾く^[注 16]。
- 1615年6月26日(慶長20年6月1日) 相模・江戸で地震 - M 6¹/₄~³/₄、小田原、江戸で被害。
- 1616年9月9日(元和2年7月28日) 宮城県沖地震 - M 7.0、仙台城が破損。三陸地方大津波。
- 1619年5月1日(元和5年3月17日) 肥後(熊本) 八代で地震 - M 6.0。卯の刻と午刻の2回の地震で旧八代城(麦島城)が倒壊、竹田城(大分県)が破損。
- 1625年7月21日(寛永2年6月17日) 熊本で地震 - M 5~6、死者約50人。地震動により火薬庫爆発し、熊本城が破損。
- 1627年10月22日(寛永4年9月14日) 松代地震 ※ - M 6.0±¹/₂、死者多数。ただし、**宝永地震**を転記した際に生じた誤り^[73]との説がある。
- 1628年8月10日(寛永5年7月11日) 江戸で大きな地震があり、江戸城の石垣が壊れた - M 6.0。

過去から未来を考える古地震.net

古地震.net

このサイトについて

古地震.net

地震を探す

更新履歴

古地震.netとは

名前から探す

場所から探す

全地震から探す

種類別に探す

大きさから探す

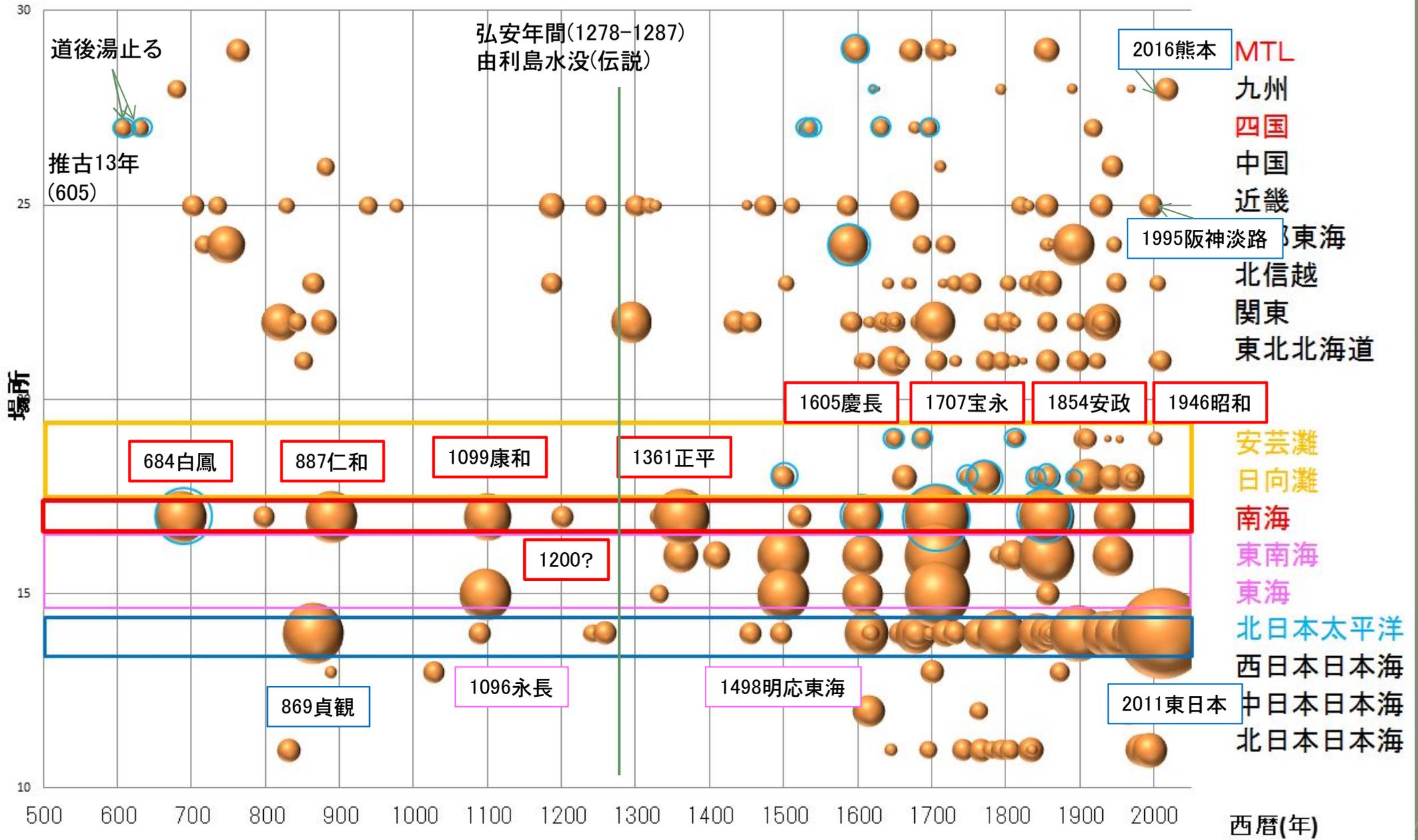
その他

年月日	マグニチュード	震央地名(現在)	名称	領域	ページ
684年11月29日	M8.3	四国沖	白鳳南海	南海・東南海・東海	●
887年8月26日	M8.0~8.5	和歌山県南方沖	仁和地震	南海・東南海・東海	●
1096年12月17日	M8.0~8.5	遠州灘	永長地震	東海・東南海	●
1099年2月22日	M8.0~8.3	和歌山県南方沖	康和地震	南海	●
1361年8月3日	M8.3~8.5	和歌山県南方沖	正平地震	南海・東南海・東海	●
1498年7月9日	M8以上	四国沖?	明応南海	南海・日向灘?	●
1498年9月20日	M8.4~8.6	遠州灘	明応東海	東海・東南海	●
1605年2月3日	M7.9	東海道南方沖?	慶長地震	南海トラフ海溝寄り?	●
1707年10月28日	M8.8前後	和歌山県南方沖	宝永地震	南海・東南海・東海	●
1854年12月23日	M8.4	遠州灘	安政東海	東海・東南海	●
1854年12月24日	M8.4	和歌山県南方沖	安政南海	南海	●
1944年12月7日	M8.0	和歌山県南方沖	昭和東南海	東南海	●
1946年12月21日	M8.1	和歌山県南方沖	昭和南海	南海	●

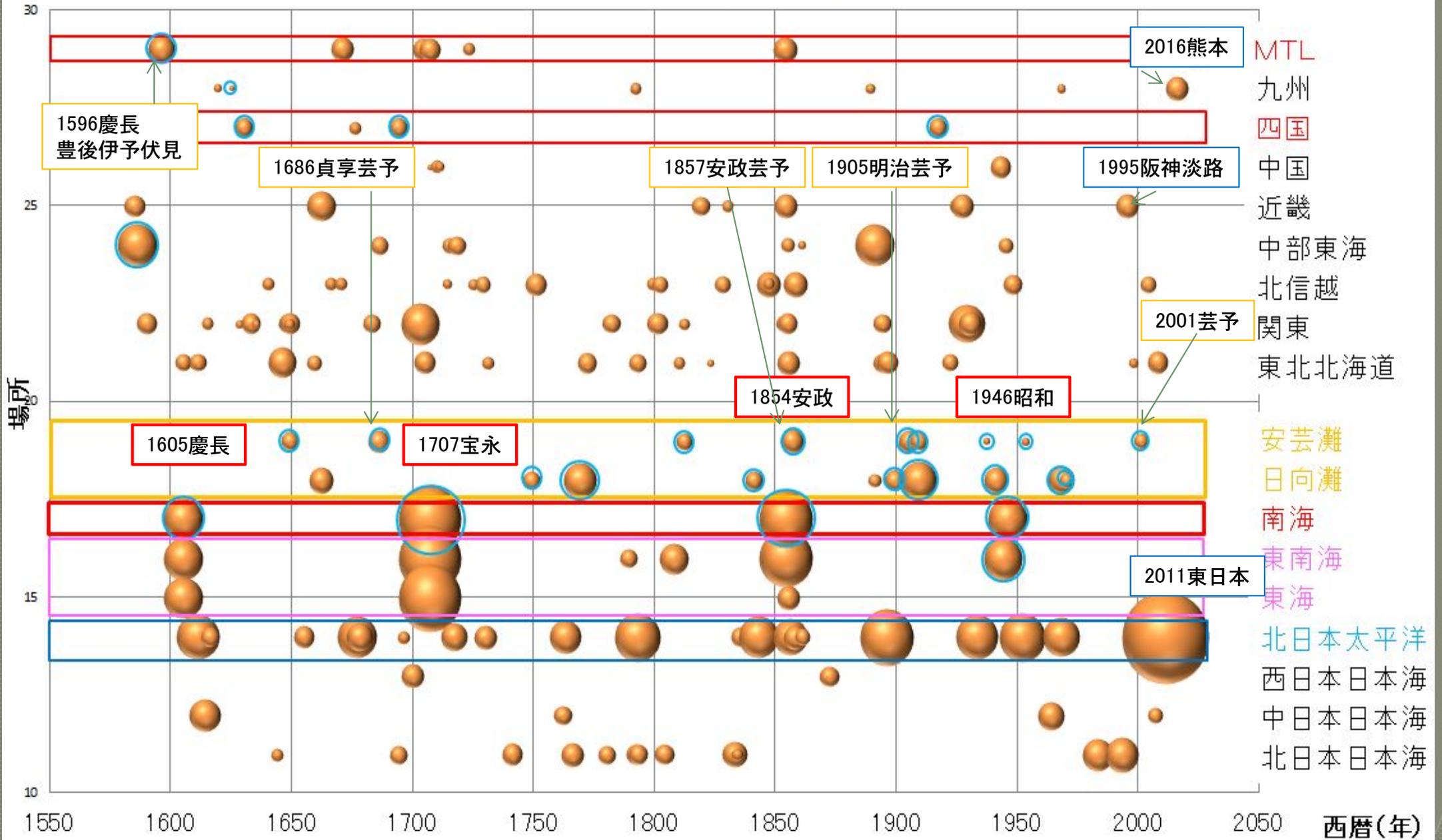
その他、南海トラフ周辺で起きたと思われる地震

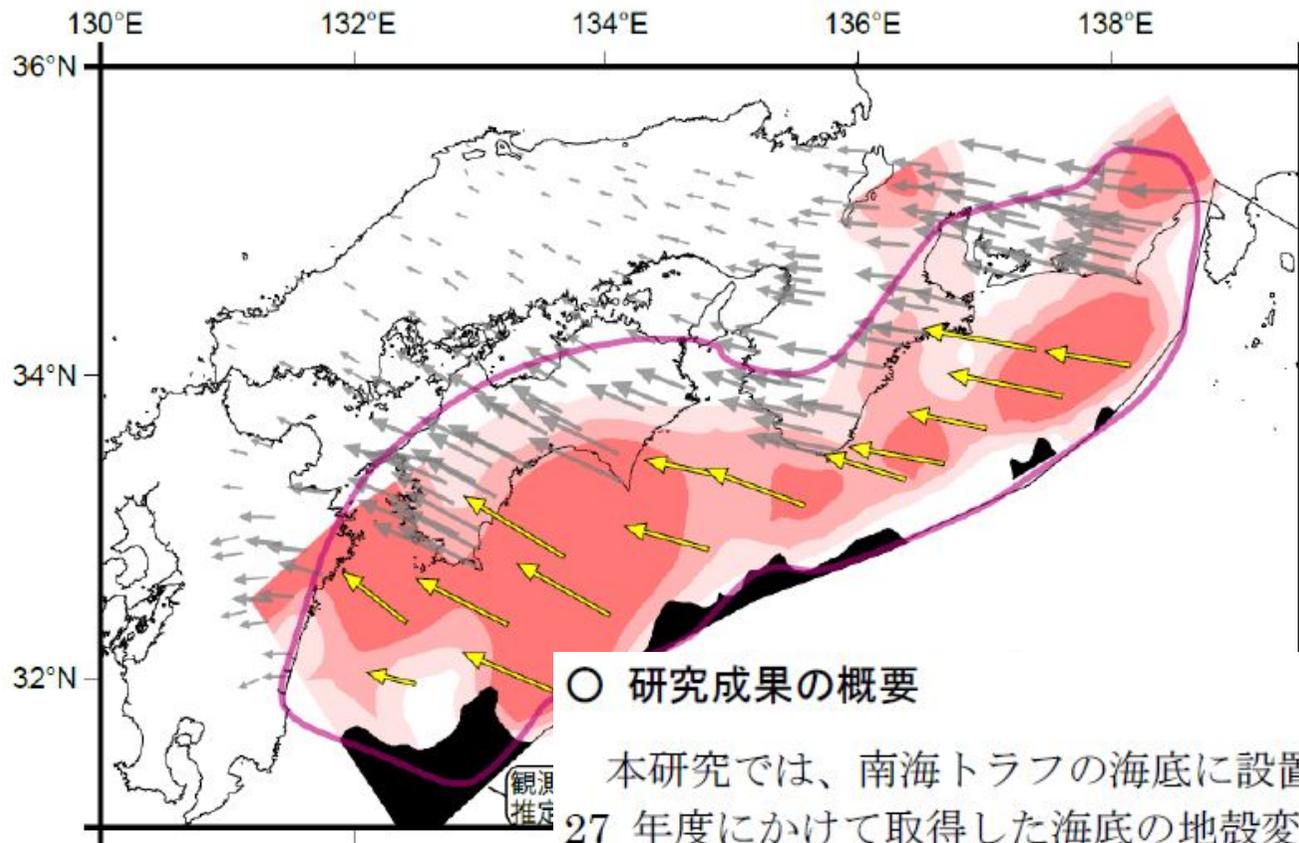
1333年8月14日	M7以上?	和歌山・静岡?		田辺の浜が隆起という記事(痕跡なし)、4日後に富士山頂崩れるという記録あるも不明	●
1360年11月22日	M7.5~8.0	和歌山県南方沖		津波の記事あり。	●
1408年1月21日	M7.5~8.0	和歌山県南方沖		津波の記事あり。	●
1520年4月4日	M7.5~7.8	和歌山県南方沖		津波の記事あり。	●

記録地震



記録地震(1550年以降)





○ 研究成果の概要

本研究では、南海トラフの海底に設置した 15 箇所の観測点で平成 18 年度から 27 年度にかけて取得した海底の地殻変動の実測データを用いて分析を行いました。

その結果、南海トラフ巨大地震の想定震源域におけるプレートのひずみ状態が初めて明らかになりました。(図 1)

本研究によって明らかになった重要な点は、以下の 2 点です。

- 1940 年代に発生した M8 クラスの地震の震源域西側の沖合と、想定東海地震の震源域の南西側に、ひずみの強い領域が延びていること (図 2)。
- 以前から予測されていた、沈み込む海山やゆっくり地震^(注)の活動域とひずみの弱い領域が合致することが、初めて実際に確認されたこと (図 3)。

(注) ゆっくり地震：近年発見された、通常地震よりもゆっくりと破壊が進む地震現象

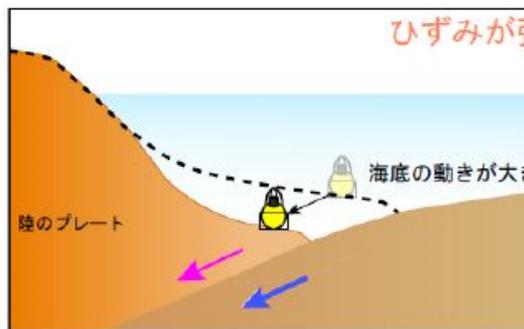


図1 海底地殻変動観測から推定された南海トラフのひずみ状態 (○ 南海)

海上保安庁発表資料より

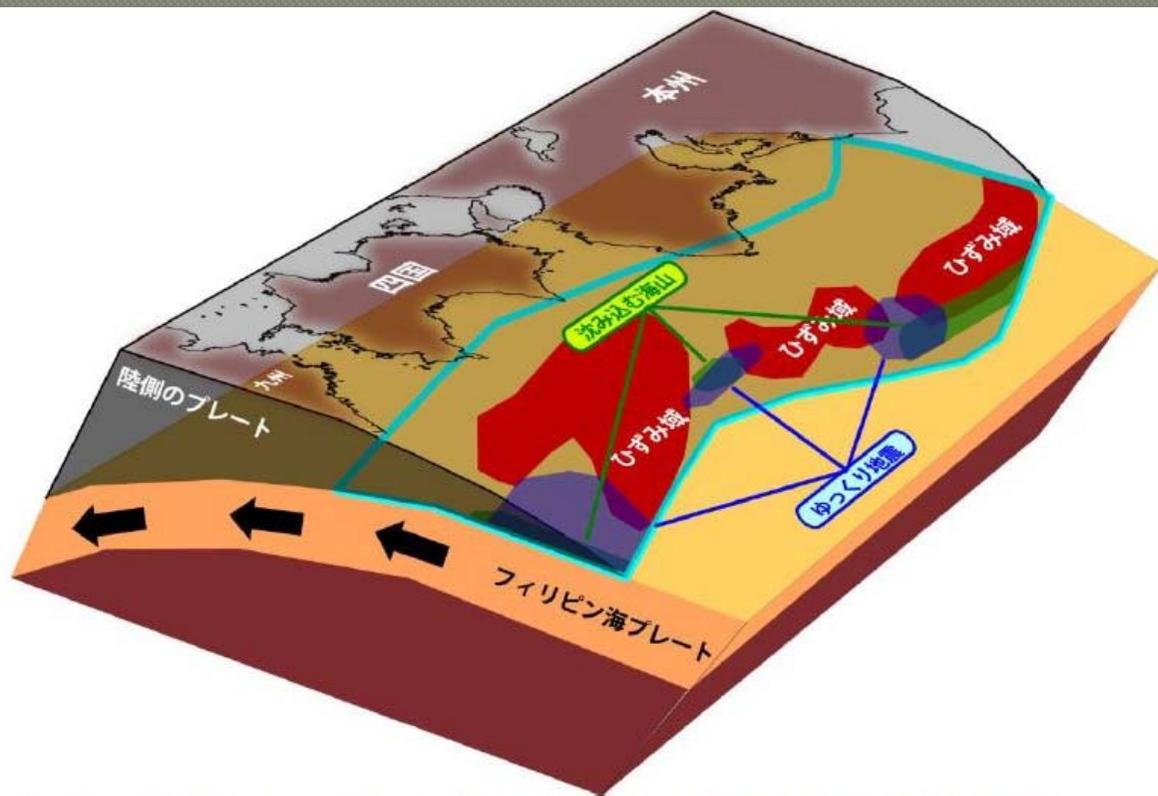


図3 沈み込む海山・ゆっくり地震活動域と、ひずみ域の位置関係(イメージ)

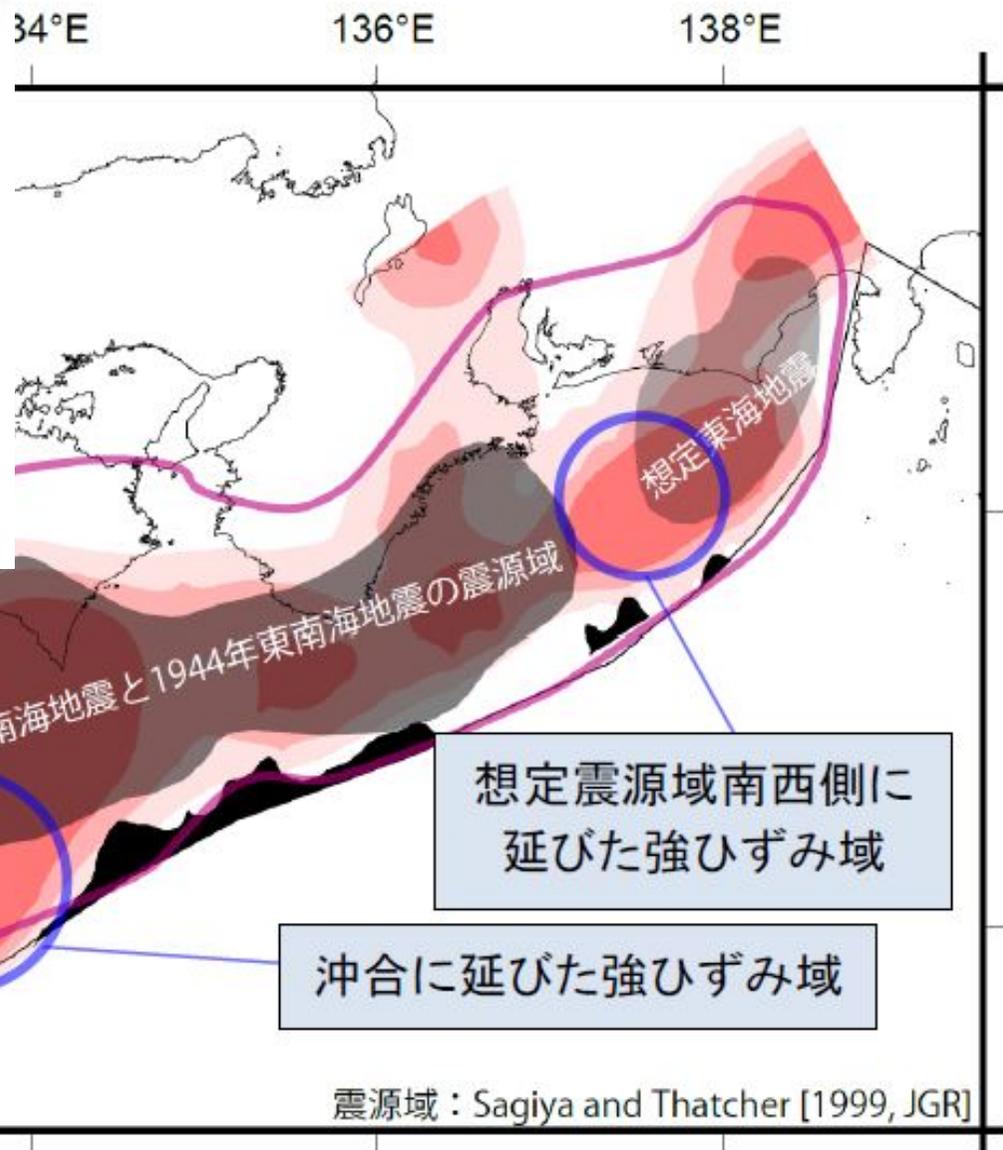


図2 想定東海地震・1944年東南海地震・1946年南海地震の震源域とひずみ分布の比較